



月2回のお米



コメ市場に関する情報がここに凝縮されています。
毎月第2・第4木曜日 夕方発行

新潟コシヒカリ

発行日 : 2021/4/15

新潟コシ [日足] 移動平均線(9,45) 200707 - 210414



TOPICs 世界のコメ需給 by USDA (米国農務省) 3月の需給報告

米農務省の3月の需給報告によれば、2020/21年の世界のコメ需給見通しは、供給量はやや多く、消費量も増加し、貿易量はほぼ横ばいで、在庫は減少する。コメの供給量は、6億8,250万トンと+20万トン増加する。これは主に、インドの米生産量の増加が、バングラデシュとオーストラリアの米生産量の減少を相殺したためである。インドの生産量は1億2,100万トンと過去最高を記録した。これは、2016/17年以降、5年連続でインドの生産量が増加したことになる。2020/21年の世界のコメ消費量は、+50万トン増の5億470万トンで過去最高となる。

世界のコメの貿易量は、ほぼ横ばいの4,630万トン。これは、インドの輸出量が過去最高の1,550万トンに達したものの、タイとブラジルの輸出量が減少したことで相殺された。2020/21年の世界の期末在庫は、主にバングラデシュとオーストラリアの影響により、▲30万トン減の1億7,780万トンとなる見込み。在庫率は35.2%で、前年の35.9%から▲0.7%減少した。

国別のコメ生産量をみると、世界最大のコメ生産国である中国は、生産が、2019/20年の1億4670万トンから20/21年は1億4830万トンと+160万トンの増加となり、同じく消費は1億4520万トンから1億4900万トンへ+380万トンの増加となった。

世界第2位のインドは、生産が前年の1億1890万トンから1億2100万トンへ+210万トンの増加となり、消費は1億0600万トンから1億0650万トンとほぼ変わらずとなった。

また輸出を見ると、タイが、2019/20年の571万トンから20/21年は610万トンへ+49万トンの増加となる一方、ベトナムが同じく617万トンから640万トンへ+23万トンの増加。世界最大の米輸出国であるインドは、同じく1249万トンから1550万トンへ+301万トンの増加となっている。

TOPICs 18/19年度以降の世界のコメ需給 by USDA

18/19年度

18/19年度の世界のコメの生産量は前年比+453万トン増の4億9,732万トン。需要は前年比+445万トン増の4億8,467万トン、需給ギャップは+1,275万トンの生産過剰、輸出は前年比▲440万トン減4,390万トン、期末在庫は前年比+1,275万トン増の1億7,691万トンであった。

2018/19	2021年3月					
	期初在庫	生産	輸入	国内需要	輸出	期末在庫
世界	164.26	497.32	44.04	484.67	43.9	176.91
中国を除く世界	55.26	348.83	40.84	341.75	41.13	61.91
米国	0.93	7.11	0.92	4.57	2.97	1.42
米国以外	163.32	490.21	43.12	480.1	40.93	175.48
主要輸出国	28.88	184.66	0.76	145.71	31.76	36.84
ビルマ	0.81	13.2	0.01	10.25	2.7	1.07
インド	22.6	116.48	0	99.16	10.42	29.5
パキスタン	1.42	7.3	0	3.3	4.49	0.93
タイ	3.01	20.34	0.25	11.8	7.56	4.24
ベトナム	1.03	27.34	0.5	21.2	6.58	1.1
輸入国	122.91	239.14	17.13	247.82	3.18	128.19
中国	109	148.49	3.2	142.92	2.77	115
EU	1.18	1.97	2.15	3.8	0.3	1.19
インドネシア	5.56	34.2	0.6	36.3	0	4.06
ナイジェリア	1.58	4.54	1.9	6.8	0	1.22
フィリピン	2.29	11.73	3.6	14.1	0	3.52
中近東	1.23	2.01	3.93	5.9	0	1.27
その他	0	0	0	0	0	0
ブラジル	0.59	7.14	0.75	7.35	0.88	0.25
中央アメリカカリブ海	0.57	1.74	1.78	3.47	0.04	0.58
エジプト	1.56	2.8	0.81	4.2	0.02	0.95
日本	2.22	7.66	0.63	8.4	0.07	2.05
メキシコ	0.15	0.19	0.74	0.92	0.03	0.14

19/20年度

19/20年度の世界のコメの生産量は前年比▲6万トン減の4億9,930万トン。需要は前年比+570万トン増の4億9,万トン、需給ギャップは▲698万トン増の1億8,230万トン。輸出は前年比+123万トン増の4,451万トン、期末在庫は前年比+698万トン増の1億8,230万トンであった。

2019/20 Est.	2021年3月					
	期初在庫	生産	輸入	国内需要	輸出	期末在庫
世界	176.73	497.71	42.54	496.33	42.96	178.12
米国	1.42	5.88	1.19	4.59	2.99	0.91
米国以外	175.31	491.83	41.35	491.74	39.97	177.21
主要輸出国	36.68	183.53	0.66	153.16	30.48	37.22
ビルマ	1.07	12.7	0.01	10.35	2.3	1.13
インド	29.5	118.87	0	105.98	12.49	29.9
パキスタン	0.93	7.2	0	3.28	3.82	1.03
タイ	4.08	17.66	0.25	12.3	5.71	3.98
ベトナム	1.1	27.1	0.4	21.25	6.17	1.18
主要輸入国	128.19	239.81	14.5	250.58	2.97	128.95
中国	115	146.73	2.6	145.23	2.6	116.5
欧州	1.19	1.97	2.44	4.05	0.31	1.24
インドネシア	4.06	34.7	0.55	36	0	3.31
ナイジェリア	1.22	5.04	1.4	6.85	0	0.81
フィリピン	3.52	11.93	2.45	14.3	0	3.6
中近東	1.27	2.34	3.98	6.15	0	1.44
その他	0	0	0	0	0	0
ブラジル	0.25	7.6	0.95	7.4	1.13	0.27
中央アメリカカリブ海	0.58	1.63	1.86	3.39	0.04	0.65
エジプト	0.95	4.3	0.3	4.3	0.02	1.23
日本	2.05	7.61	0.71	8.35	0.03	1.98
メキシコ	0.15	0.18	0.8	0.94	0.02	0.18
韓国	1.09	3.74	0.45	4.1	0.06	1.14

20/21年度

20/21年度の世界のコメの生産量は前年比+510万トン増の5億441万トンと初めて5億トンを超えた。需要は前年比+1,236万トン増の5億469万トン、需給ギャップは▲28万トンと初めて供給不足となった。輸出は前年比+174万トン増の4,625万トン、期末在庫は前年比▲420万トン減の1億7,810万トンであった。

単位：百万トン	2021年3月					
	2020/21 Proj.	期初在庫	生産	輸入	国内需要	輸出
世界	178.12	504.41	43.97	504.69	46.25	177.83
中国を除く世界	61.62	356.11	40.97	355.69	43.85	61.43
米国	0.91	7.23	1.15	5.08	2.95	1.25
米国以外	177.21	497.19	42.82	499.61	43.3	176.58
主要輸出国	37.22	187.3	0.71	153.95	34.5	36.78
ビルマ	1.13	13	0.01	10.5	2.4	1.24
インド	29.9	121	0	106.5	15.5	28.9
パキスタン	1.03	7.6	0	3.3	4.1	1.23
タイ	3.98	18.6	0.2	12.4	6.1	4.28
ベトナム	1.18	27.1	0.5	21.25	6.4	1.13
主要輸入国	128.95	241.17	15.6	254.66	2.77	128.29
中国	116.5	148.3	3	149	2.4	116.4
欧州	1.24	1.98	2.4	4.15	0.32	1.15
インドネシア	3.31	35.5	0.5	35.8	0	3.51
ナイジェリア	0.81	4.73	1.8	6.7	0	0.64
フィリピン	3.6	12.2	2.2	14.4	0	3.6
中近東	1.44	2.27	3.7	6.21	0	1.2
ブラジル	0.27	7.48	0.85	7.35	0.8	0.45
その他	0	0	0	0	0	0
中央アメリカカリブ海	0.65	1.61	1.92	3.5	0.03	0.65
エジプト	1.23	4	0.25	4.3	0.02	1.16
日本	1.98	7.62	0.69	8.27	0.08	1.94
メキシコ	0.18	0.19	0.8	0.96	0.01	0.2
韓国	1.14	3.51	0.45	4	0.06	1.04

TOPICs 11/12年度以降の世界のコメ需給 by USDA

単位百万トン	生産	前年比	輸出	前年比	需要合計	前年比	期末在庫	前年比	在庫率	前年比	需給ギャップ (生産-需要)
2011/12	469,641	+18,049	40,027	+3,495	459,732	+13,497	111,841	+9,909	24%	+1.5%	+9,909
2012/13	475,894	+6,253	39,526	▲501	464,775	+5,043	122,960	+11,119	26%	+2.1%	+11,119
2013/14	481,283	+5,389	44,200	+4,674	476,572	+11,797	127,671	+4,711	27%	+0.3%	+4,711
2014/15	482,410	+1,127	42,769	▲1,431	474,991	▲1,581	135,090	+7,419	28%	+1.7%	+7,419
2015/16	476,738	▲5,672	40,235	▲2,534	469,437	▲5,554	142,391	+7,301	30%	+1.9%	+7,301
2016/17	490,996	+14,258	48,155	+7,920	483,487	+14,050	149,900	+7,509	31%	+0.7%	+7,509
2017/18	494,835	+3,839	47,676	▲479	482,166	▲1,321	162,569	+12,669	34%	+2.7%	+12,669
2018/19	499,372	+4,537	43,273	▲4,403	486,622	+4,456	175,319	+12,750	36%	+2.3%	+12,750
2019/20	499,309	▲63	44,510	+1,237	492,325	+5,703	182,303	+6,984	37%	+1.0%	+6,984
2020/21	504,410	+5,101	46,250	+1,740	504,690	+12,365	178,100	▲4,203	35%	▲1.7%	▲280

TOPICs 世界の穀物価格上昇中 by 世界銀行 The Pink Sheet



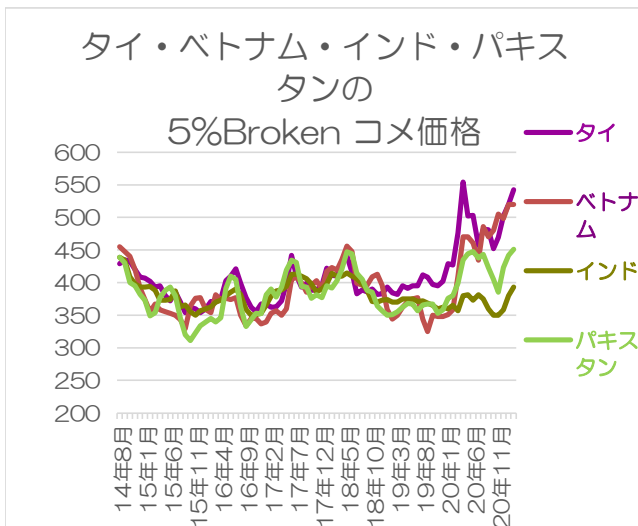
World Bank（世界銀行）がまとめている国際穀類価格が急上昇している。

特に上昇が顕著なのは大豆価格で、2021年1月現在、トン当たり13ドル71.55セントとなっており、上昇し始めた2019年9月の安値3ドル60.93セントから10ドル11セント高、上昇率は280%となっており、4倍近くに高騰している。

また国際米価も上昇が著しい。2021年1月のタイ産の25%ブローンは1月時点でトン当たり545ドルまで上昇した。前月比で+25ドルの上昇で、最近の値上がりの起点である2018年7月の390ドルとの比較では、+155ドル高、上昇率は40%となっている。

また、国際米価も値上がりの傾向である。タイ産米価は前述のとおりであり、ベトナム産米価（5%ブローン）は同じ1月現在価格で517ドルとなっている。これは値上がりし始めた2008年2019年4月の341ドルとの比較で176ドル高、上昇率は52%である。

TOPICs タイ・ベトナム・インド・パキスタンの5%Broken米価格



世界の主要なコメ輸出国であるタイとベトナムの米価が値上がりしている。ベトナム産（5% broken）は、最新の2021年2月で525ドル（トン当たりドル建て）で、2019年9月の安値325ドルから+200ドル上昇、上昇率は+62%。一方、タイ産（5%broken）は同542ドルで、20年9月の安値454ドルを起点として+88ドル高、上昇率は+19%となっている。

タイ産は昨年4月の高値549ドルをピークとして、その後値下がりしていたが、9月までの下落でいったん安値をつけて上昇に転じた。この間、タイ産は一時ベトナム産より安い水準となり、価格差が逆転した。しかし、20年12月以降は、タイ産とベトナム産の米価はほぼ同レベルで推移している。

ベトナム食糧協会によると、3月上旬現在、ベトナム産コメの1トン当たりの輸出価格は、碎米率100%の米が438~442ドル(日本円で約4万7700~4万8200円)、碎米率25%の米が488~492ドル(約5万3200~5万3600円)、碎米率5%の米が513~517ドル(約5万6000~5万6400円)、ジャスミン米が563~567ドル(約6万1400~6万1800円)となっている。ベトナム産の米価は、ほぼ全面高となっており、9年ぶりに高い水準である。

食糧安全保障に向けた各国政府のコメ備蓄強化の影響により、コメ価格はコロナ以前と比べて約15%上昇し、高水準を維持、この備蓄傾向は今後も継続するとの予想からコメ需要は2021年にも高水準を維持していくものと見込まれている。

ベトナム産の米価が急騰している原因は、主食用米の輸出市場で存在感が強いタイ産の輸出が減少しているため、ベトナム産の引き合いが高まっていることにある。また産地での高温乾燥や水不足で生産量が減り、輸出余力が急激に低下していることも大きな原因の1つ。海上貨物輸送量のバランスが崩れてコンテナ不足に陥り、運賃が上昇したことも間接的な影響となっている。米農務省によれば20年のタイのコメ輸出量は過去24年間で最低だった。

ロイター通信によると、ベトナムは、国内の米価の激しい値上がりに伴い、自国外からコメを輸入する動きが出ているという。事実、史上始めてベトナムはインドからコメを輸入する計画で、ベトナムはインド産のコメ7万トンの輸出入契約を締結した模様である。関係者によると、ベトナムはインドから1月と2月に合計7万トンの100%破碎米を輸入する契約を結んだ。価格は1トンあたり310ドルという。

今後の見通し

世界的にはコメの価格は上昇し、トウモロコシ等穀物の価格も値上がっており、昨年夏から比べるとトウモロコシも小麦の価格も約1.5倍になっている。一方大阪堂島商品取引所では、2月中旬以降再び新潟コシヒカリの価格が下落基調になっている。これは新型コロナウィルスに変異ウィルスが出現し、再び感染拡大になった時期と一致している。2月から始まったワクチン接種もなかなか予定通りには進んでいない。こうしたコロナ渦だけではないにしても、8月の試験上場終了を前に今後3ヵ月間の出来高と価格の動きが注目される。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMI」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMIが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMIは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMIに帰属し、事前にCOMMIへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMIが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMIは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMIおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

発行元：

